

令和7年度

人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座

釜石発!～100年住めるおらほの街～ 未来型地域づくり塾

【事例発表】

社会福祉法人 釜石市社会福祉協議会

地域福祉課 主任

生活支援コーディネーター（鵜住居&中妻地区担当）

小原 裕也

【話の流れ】

復興住宅コミュニティ支援 復興住宅自治会設立支援



高齢者閉じこもり予防戦略 人生100年時代の地域づくりWS



生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーターへの発展

平成27年度（2015年度） 上中島2期復興公営住宅におけるコミュニティ支援

- ・ 市内最大の復興公営住宅（156戸）
- ・ 被災全地域からの入居者
- ・ 大小4つの棟が同じ敷地に並ぶ構造

入居者のコミュニティ形成
の難しさがあった。



横断プロジェクトチームの発足

- ・ 行政（部・課を越えた参画）
- ・ 民間の多様な関係団体の参画（社会福祉協議会、NPO法人、支援団体）
- ・ 地域づくり推進課（現：まちづくり課）が入居者交流会の企画運営、各種調整を担っていたが、多様な関係団体が企画検討段階から参画、多様な役割を担うように変化していく

自治組織

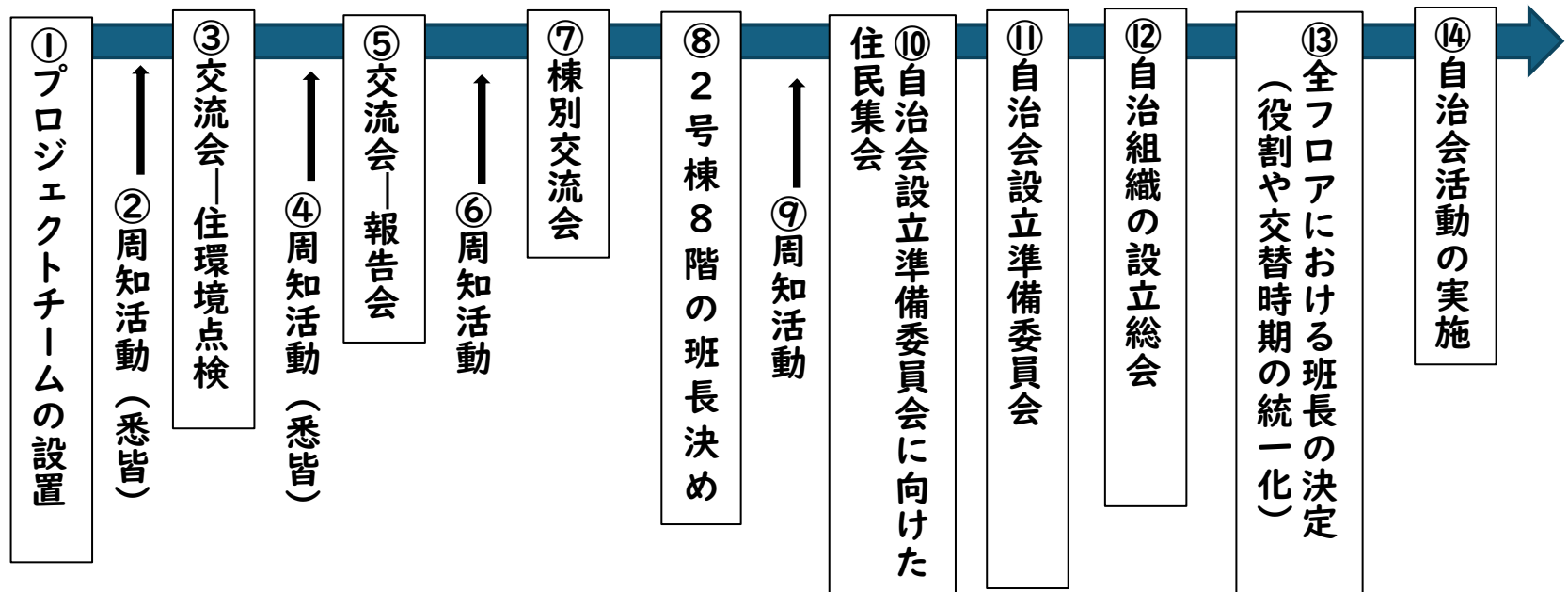
自治組織発足までの過程から発足後のフォロー



復興公営住宅自治会設立支援プロジェクト連絡会
（以下、「PJ会議」）

地域づくり推進課、生活応援センター、都市計画課、地域包括ケア推進本部、復興局住宅整備室、岩手県建築住宅センター沿岸支所、社会福祉協議会、カリタス釜石、釜石支援センター望、釜援隊、東京大学高齢社会総合研究機構

自治会設立までのフロー



社協が中心になった支援団体のネットワーク構築によるサロン活動



日頃からの住民の交流、集いの場づくり

●お茶っこサロン

主体：釜石社協を中心とした市内5団体でローテーション

日程：毎週金曜日10時～12時

内容：お茶っこ、レク、手芸など



高齢者の孤食と栄養面を心配した一人の住民の声 ✨
「自分たちでお昼ごはんを作って食べる活動をしたい！」

平成28年度～
支援団体の撤退と自主活動の立ち上げ支援

平成29年4月
住民主体のサロン団体「上中島はまゆり会」結成！
当時の会員数50世帯超！
毎月2回 昼食会を開催
会場に来れない方には宅配も！

復興住宅自治会設立フロー

《 住民交流会 》

第1回目 (内覧会・抽選会・説明会当)

※目的 入居者間での自己紹介や意見交換
第2回 入居開始から2か月経過

※目的 住んでみての建物に関するこ
と、その他生活一般に関する
困りごと等課題出し

第3回 課題出しから1か月後

※目的 第2回交流会で出された課題や
意見に対して、行政側が検討
した結果を回答

自治組織の必要性の確認

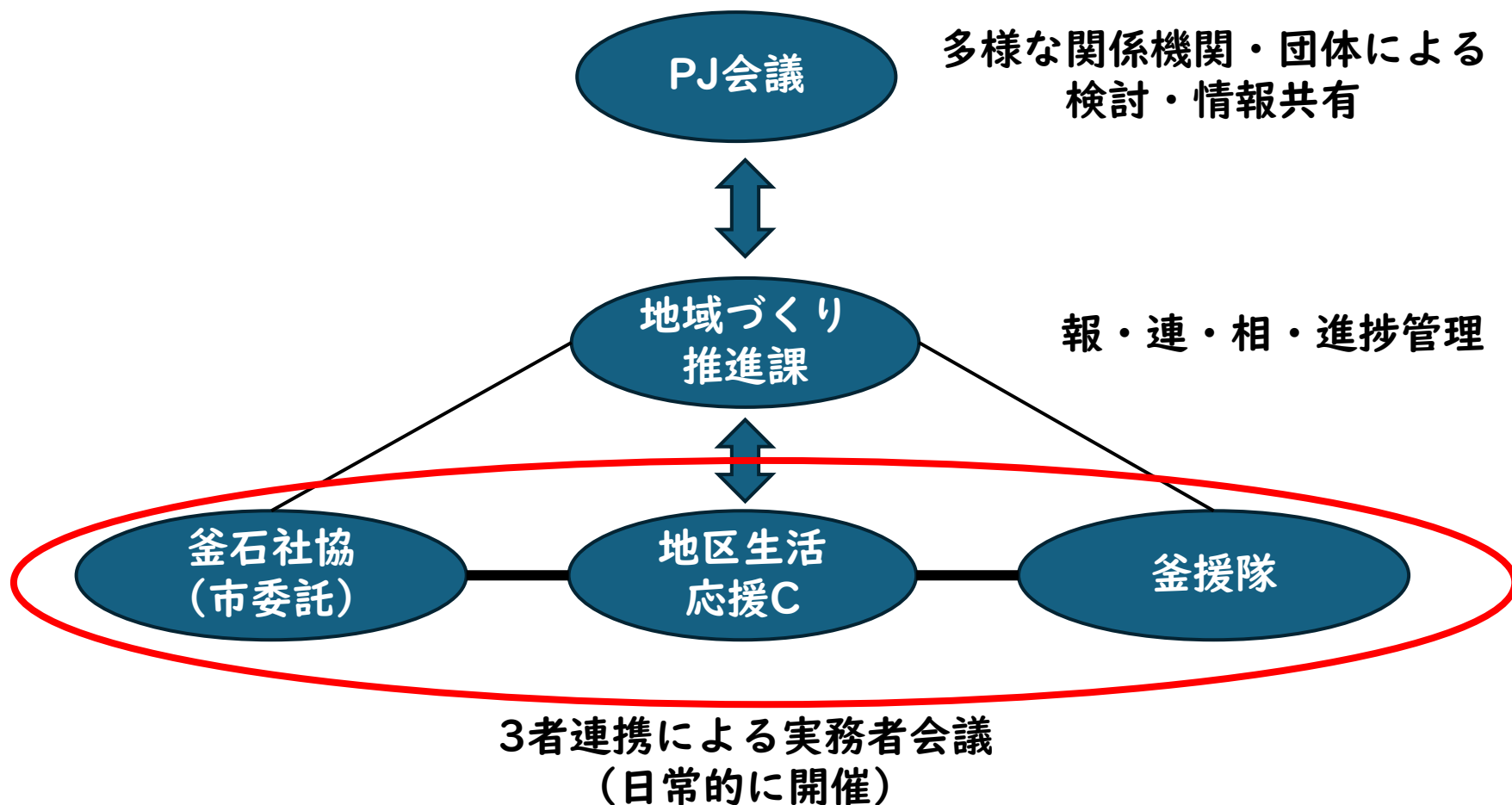
自治会設立準備委員の選出

自治会設立準備委員会(複数回)

総
会

平成28年度以降 復興住宅が群設
釜石地区(全18棟)・鵜住居地区(5棟)
同様の体制・フローで展開

3者連携による取り組みの加速（釜石・鵜住居地区への横展開）



<取り組みのポイント>

- ・部課横断、多様な関係団体の“みんなで”取り組む体制ができたこと

- ・「1年でできなくても良いから」

市担当課の住民の発意を待つ姿勢に感謝。

自治会を作ることが目的ではない。住民が安心して暮らせる環境、住民同士の関わり合いが大事。

令和6年にやっと芽が出て自治組織が発足した住宅も！

- ・自治組織は住宅規模、入居者の考え方などを踏まえて、柔軟に提案（会長型、世話人型、住民集会型）

⇒住民の意識醸成、住民組織化、コーディネーターとしての在り方を学んだ！

平成30年（2018年）～

釜石市高齢者閉じこもり予防戦略検討ワークショップ
～人生100年時代をどう生きるか～

【ねらい】

人生100年時代、自分らしく地域で暮らし続けるために、社会参加や健康づくり、介護予防、住民主体の支え合いの在り方について、地域住民、行政、福祉専門職種らとともに考え、住民主体の居場所づくり等の具体的なアクションにつなげる。

【主な参加者】

町内会自治会、民生委員、ボランティア、住民活動担い手

【内容】

【後藤先生による講話】

健康づくり、介護予防における社会性の重要性、多様な居場所づくりの必要性について学ぶ

【ワークショップ】

- ・地域の資源を確認する
- ・10年後の望ましい自分の姿、まちの姿
- ・地域のSWOT分析（強みと弱みの整理）
- ・地域で取り組みたいこと

なぜ社会参加が大切なのか、自身の健康と結び付けながら理解しやすい伝え方を学んだ
⇒100歳体操や住民活動の立ち上げが加速！

平成29年度～ 4名の生活支援コーディネーターが配置！（市委託）



おばら ゆうや

氏名：小原 裕也

担当：中妻・鵜住居



よしだ なつみ

氏名：吉田 夏海

担当：甲子・小佐野



おがさわら みえこ

氏名：小笠原 美恵子

担当：平田・唐丹

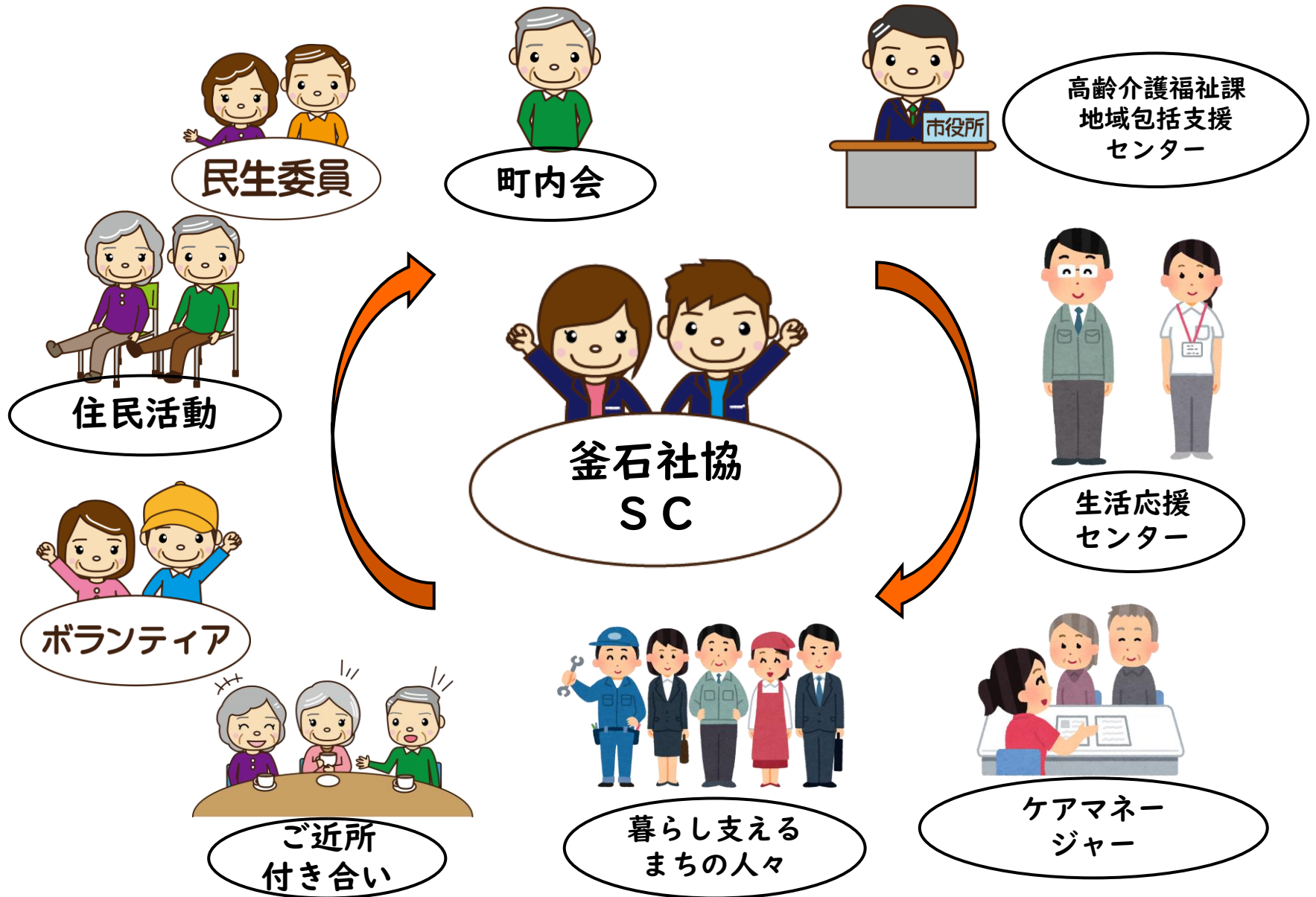


なつめ みさき

氏名：夏目 未咲

担当：釜石・栗橋

生活支援コーディネーターは人と繋がり、繋ぐ



①介護予防につながる住民活動の立上げ・継続支援 (100歳体操、サロン、サークル活動など)



100歳体操は市内50団体!



男性5名の担い手が運営する中妻地区サロン会(通所B)
男性には役割があると良い!



復興住宅入居者の交流をつくり、コロナ禍にも負けずに続けてきた“上中島はまゆり会”会場に来られない方には宅配も!



住民活動の立上げ、運営支援のためには生活応援センターや地域会議、民生委員やボランティア団体などとの連携が大切!

②高齡者の生活支援を行う住民主体の活動

生活支援ボランティア（訪問B型サービス） “おとなりさん倶楽部”の紹介

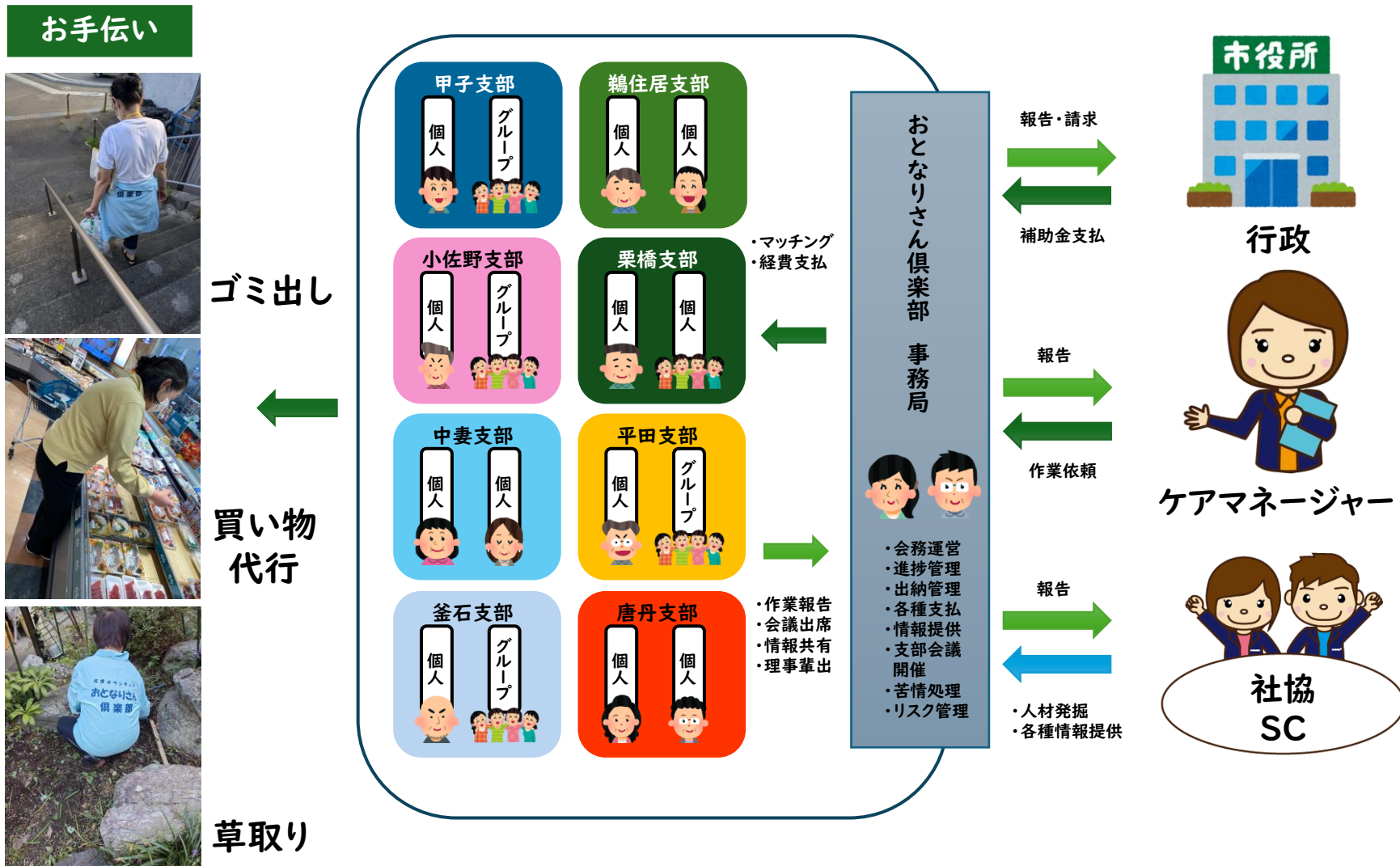


代表：50代 自営業の方

「いつか自分も支えが必要な時
が来る。その時に誰かのチカラ
を借りられる社会（仕組み）で
あってほしい。」

住民主体の「訪問型サービスB」 おとなりさん倶楽部

平成31年4月発足 活動会員42名 利用者40名 (R7.11現在)



③安心して生活できる地域づくりを目指したネットワーク構築（地区センター会議）※第2層協議会

～地域に必要な資源をともに考える～

地域の実情に応じた様々な福祉課題をテーマにして、多様な関係者の参加を得て協議する場。平成29年度～各地区で展開。

生活応援センターが主催ではあるが、SCも協働している。

生活応援センターや地域の皆さんと共に、様々な取組みにつなげる。

見守り

認知症支援
チーム
オレンジ

地域交流
世代間交流

防災
防犯

介護予防
サロン活動

その他

- ・空き家
- ・お風呂難民等

～地区センター会議（第2層協議体）～



～地域で生まれた新たな資源（一例）～



チームオレンジ（県内3番目に発足）



こども食堂



住民懇談会



談話ルームかし

【これまでの取り組みを経て得たもの】

●行政担当課との円滑な連携体制

生活応援C、地域包括支援Cとの連携による多様な活動
(第2層協議体、チームオレンジ、100歳体操など)

●ファシリテーター、コーディネーターのチカラ

- ・地域住民と関係を築き、声をしっかり聴くこと
- ・地域性を捉えること(住人十色)
- ・自身がアイデアを住民に提示し、選択肢を増やすこと⇒「決めるのは住民」
- ・行政任せ、住民任せにしない! 伴走する距離感(前に横に後ろに)

あくまで主役は地域の皆さん。
活動の負担感をやわらげ、安心して活動できる環境を整えること、人と人をつなぎ、情報を整理し選択肢を提案すること、実情に合わせて前に、後ろに、そばにいて共に歩む伴走者の存在は重要。



今日は、そんな“影の存在”に光を当てていただき、有難うございました。
これからも地域の皆さんとともに。

ご清聴ありがとうございました。